

成果報告書

慶應義塾大学政策・メディア研究科 (HC)

修士課程 2 年 (82324221)

浦野里彩

1. 問題の所在

海を神聖なものとみなす人々がいる。にもかかわらず、なぜかその海に毎日「ゴミ」を投げ入れる。さらには海に投げ入れなければならない「ゴミ」さえ存在する。一見すると矛盾に見えるこの現実とは、どう共存し得るのか。

本調査地であるインドネシア共和国南スラウェシ州ラエラエ島は、スラウェシ島とボルネオ島に挟まれたマカッサル海峡に位置する、スパモンド諸島を構成する小さな島々のうちのひとつである。ラエラエ島のある南スラウェシ地方社会においては、その儀礼・口頭伝承より「天上界」「中界」「地下(水)界＝海」の三界からなる神話的世界観の存在が明らかにされてきた (e.g. 佐久間 1981)。特に水界は、「ヒトが「ワニ」などの水棲生物に変身した」あるいは「キョウダイである水棲生物が片割れの人間を探しに海から陸に上がってきた」などという語りが頻繁に聞かれる。つまり、海は、死後の靈魂が赴く先、かつ新たに誕生する人間の靈魂の由来であると捉えられており、極めて神聖で重要な位置を占めるとされている。

筆者は修士研究において、ラエラエ島に生きる人々の日常生活における海との関わりに焦点を当ててきた。その過程で実際に、海にいた「ワニ」が陸の人間に憑依するとの現象と語りが見られたことから、先述の神聖な海洋観はいまだに健在であることが分かる。しかし、それと同時に日常生活で最も多く見られた海との関わりは、海に「ゴミ」を入れることである。さらには、海に投げ入れなければならない「ゴミ」さえ存在する。

本研究は、ラエラエ島において海と共に生きるある家族の日常生活における海との関わりに焦点を当てる。一見すると矛盾に見える「『聖』なる海にゴミを投棄する」現実がいかに成立し得るのかとのリサーチクエスションをもとに、彼らの海洋観と汚穢観を明らかにし、海洋観と汚穢観からみる彼らにとっての『聖』を考察することを目的とする。

2. 調査地概要・調査方法

調査地である通称「ラエラエ島」は、スラウェシ島とボルネオ島に挟まれたマカッサル海峡に位置し、スパモンド諸島を構成する小さな島々のうちのひとつだ。インドネシア共和国南スラウェシ州の都市マカッサルの西部、ロサリビーチ (Pantai Losari) 沿いの船乗り場である、カユ・バンコア (Kayu Bangkoa) 棧橋やロッテルダム要塞 (Benteng Rotterdam) 前の棧橋から約 1.5km、モーター付きの小船で約 10 分ほどの場所に位置する。

現地でフィールドワークを行った。対象者の家に住まわせてもらい、彼らと生活を共にしながら、フィールドノーツを記すことでデータを集める。期間は、2024年9月2日～9月29日である。

3. フィールドワーク結果

今回のフィールドワークでは、新たな海洋観に関する語りと、黒魔術や病に海が使われるとの事象を見ることができた。

第一に、先行研究によって示された南スラウェシの伝統的価値観や南東スラウェシにおける海洋観との比較において、双方で示された「ワニ」の憑依現象はあるものの「キョウダイ霊¹」の儀礼とは異なり、胎盤を海に投げることはせず、木の下に埋める。体が死んだ後にそこを目掛けて魂が返ってくる。また、祖先霊も海と関連した精霊として描かれているが、ラエラエ島ではそれはイスラームの文脈で語られ、海と関係しない。特別な力を持った「Tau ni kamaseang」と呼ばれる人が祖先を自分の体に憑依させ、お告げやアドバイスを聞く儀礼がある。それによって日々の生活の行為を変えたりするため、日常生活に根ざしているとは言えるが、祖先霊は海の精霊ではない。加えて、ラエラエ島には2つの墓²があり、イスラームの大きなイベントの前後にはお供えの儀式をするため、イスラームとの関わりが深い上、憑依する祖先を選ぶのも他でもないアッラーである。

第二に、日常的な海との関わりについての突出した例として挙げられるのは、使用済みの生理用品がある。それがあると、島に悪魔 Setan がやってくる可能性があるから海に投げ入れる必要がある。ここまでは前回のフィールドワークで明らかになったのだが、この悪魔 Setan はイスラームとは関連しないとの語りがあった。悪魔には3つ種類があり、① Jin：イスラームの悪魔、② Setan(1)：この世に満足せずに死んだ人の魂、③ Setan(2)：魔術 ilmu gaib 的な悪魔である。経血が好きなのは③の悪魔であるという。また、黒魔術を浄化する海の機能も確認された。例えば、ある女性がマンゴーを持ってきて、それを食べた後、いきなり Ummi（家族のうちの一人）の足は痛くなった。黒魔術にかけられたという。黒魔術とともに悪夢を見ないように、寝る部屋に海水を撒く。普通の水では効果がなないと語る。また、黒魔術にかかったら、海に入ることもあるし、家の前に海水をまくことで防止したりもする。こういった黒魔術からの病の対処法に加え、病そのものの対処法としても海は使われる。喉が痛い時に、朝、海水を少量飲めば治ると言われた。また、新型コロナウイルスの話になると、「信じてなかったよ。かかったとしても風邪と同じように対処しただろうね。海に飛び込めば治るわ。」と言語化した。

4. 考察

本フィールドワークは3度目であるため、1・2回目のフィールドワークのデータももとに、これらを海の機能として『聖』化と『清』化に分け、それらの機能を使うべき対象としての「ケガレ」を考察していく。最終的に、『聖』と『清』の比較によって得られる、「ケガレ」理論や当該分野において重要視されてこなかった示唆を行いたい。

¹ 出産の時に人間の片割れとして胎盤を海に投げ、それを双子のキョウダイとみなす。ワニとして現われる。

² 小さな小屋の中に1体ずつの墓がある。FW先に近い小屋には夫が、遠い小屋には妻が入っており、島を守っていると言われている。